

証券コード：3422

# 株主通信

第54期 中間決算のご報告  
2011年4月1日から2011年9月30日まで



株式会社 **丸順**

# 株主の皆様へ



取締役社長

今川喜章

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申しあげます。

さて、このたび当社第54期第2四半期連結累計期間(2011年4月1日から2011年9月30日まで)を終了いたしましたので、営業概況及び第2四半期決算のご報告を申しあげます。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申しあげます。

2011年 11月

## 1. 連結経営成績に関する定性的情報

当第2四半期連結累計期間における世界経済は、欧米において経済状況の回復が減速し低成長が続いたほか、好調だったアジア経済で一部回復が鈍化するなど、全体として低調に推移しました。日本国内においては、平成23年3月に発生した東日本大震災による供給面の制約はほぼ解消され、復興需要に後押しされる形で経済は回復基調に転じました。しかしながら、円高の進行や雇用情勢の悪化など、景気下振れのリスクには引き続き注意が必要となっております。

当社グループが属する自動車業界では、震災発生後は減産が著しかったものの、夏場には震災以前の水準近くまで生産は持ち直しました。これは、予想を上回るペースで復旧が進捗したことに加え、業界全体で電力不足などの諸問題に取り組んだことが大きな要因であります。

このような状況のもと、当社グループは、売上高、利益ともに前年度の水準を大きく下回る中で震災からの復旧を目指し、固定費の削減を進め経営体質のスリム化を図ることで、外的環境に影響されない「ボトム経営体質」の構築に注力してまいりました。また、生産に関わる品質の向上や安全性の確保、強みとなるコア技術の深化といった、グローバル企業としての基盤構築にも取り組んでまいりました。

しかしながら、日本のみならずタイ、広州等における減産の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は16,633百万円（前年同四半期比24.0%減）、営業損失は218百万円（前年同四半期は1,158百万円の営業利益）、経常損失は367百万円（前年同四半期は933百万円の経常利益）、四半期純損失は631百万円（前年同四半期は467百万円の四半期純利益）となりました。

なお、現在の経営状況を鑑み、誠に遺憾ながら当第2四半期末の配当は見送らせていただくことになりました。

## 2. セグメント別の業績

### ■ 丸 順（株式会社丸順）

丸順においては、当社のメイン商品である車体プレス部品では、東日本大震災の影響により主要顧客が一時的に減産をしたため、業績に大きな影響がありました。なお、その後早期に復旧を果たし、生産は堅調に回復をしております。金型においては、主要顧客からの発注が延期されるなどしたため、一部生産計画を変更し、対処してまいりました。

以上の結果、売上高は6,425百万円（前年同四半期比29.2%減）、経常損失は180百万円（前年同四半期は38百万円の経常利益）となりました。

### ■ タ イ（タイ・マルジュン社）

タイにおいては、タイ国内及び周辺諸国地域における自動車産業の成長に支えられ、生産は堅調に推移してまいりましたが、日本における震災以降、日本からの部品調達が難航したため、主要顧客の生産が停滞し、大きく減産する状況となりました。

以上の結果、売上高は3,677百万円（前年同四半期比23.3%減）、経常損失は153百万円（前年同四半期は186百万円の経常利益）となりました。

### ■ 広 州（広州丸順汽車配件有限公司）

広州においては、中国における自動車需要の拡大は底堅いものの、日本の震災の影響による部品調達難により、主要顧客の生産が停滞し、減産いたしました。また、同業他社や現地ローカル部品メーカーとの受注競争が激化しているほか、主要顧客の生産車種の切り換わりもあったため、売上高、利益ともに減少するなど、全体として厳しい状況で推移いたしました。

以上の結果、売上高は3,974百万円（前年同四半期比30.7%減）、経常損失は5百万円（前年同四半期は635百万円の経常利益）となりました。

## ■ 武漢（武漢丸順汽車配件有限公司）

武漢においては、中国国内の自動車需要が前年に引き続き拡大しており、主要顧客が増産しました。そのため、日本の震災の影響は各所に見られたものの、生産に大きな乱れは無く、当社の生産も好調に推移しました。

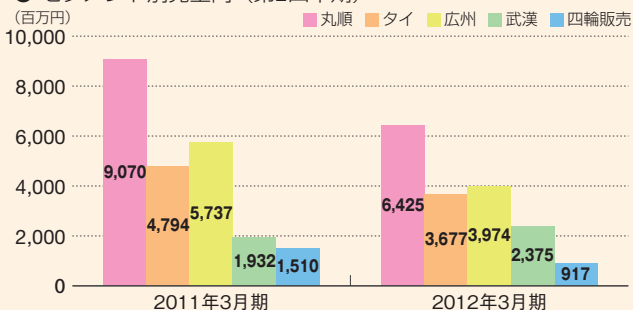
以上の結果、売上高は2,375百万円（前年同四半期比22.9%増）、経常利益は134百万円（前年同四半期比25.7%増）となりました。

## ■ 四輪販売（株式会社ホンダ四輪販売丸順）

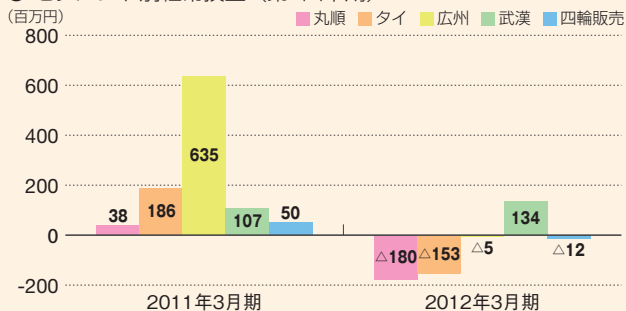
四輪販売においては、車検及び修理を行うサービス部門は前年度並みの売上高を維持し好調だったものの、新車・中古車の販売部門においては、売上高は減少いたしました。特に新車販売部門では、前年度実施されたエコカー補助金制度で買換え需要の先食いがあったほか、震災の影響により一時的な商品の供給不足となるなど、大きな影響がありました。

以上の結果、売上高は917百万円（前年同四半期比39.2%減）、経常損失は12百万円（前年同四半期は50百万円の経常利益）となりました。

### ● セグメント別売上高（第2四半期）



### ● セグメント別経常損益（第2四半期）



# トピックス

## フィットシャトル／フィットシャトルハイブリッド発売

2011年6月、新型コンパクトカーホンダ「フィットシャトル／フィットシャトルハイブリッド」が発売されました。同車は、扱いやすい5ナンバーサイズながら大容量のラゲッジスペースと広々とした居住空間が特長で、発売後約2週間での累計受注台数は、月間販売計画の3倍となる1万台を超えるなど、消費者からも大変好評を得ております。

当社は、同車において骨格部品を中心に27部品を受注しております。



## 東日本大震災被災地への義援金寄付、復興支援活動に参加

当社では、東日本大震災で被災された方々の救済や被災地の復興にお役立ていただくため、社内での募金活動や当社海外子会社からの義援金合わせて約540万円を日本赤十字社に寄付、また、義援物資としてアルファ米2,000食を寄贈いたしました。

さらに、当社の従業員6名が、岩手県大槌町にて9月5日より1週間復興支援のボランティア活動に参加しました。



### 株主優待制度における 義援金送金に関するご報告

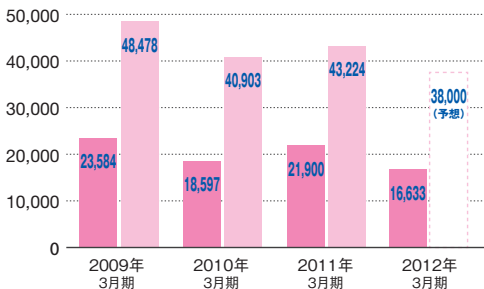
当社は、平成23年度の株主優待制度において、被災地復興支援の一助として「東日本大震災チャリティー」を優待選択肢のひとつとして追加いたしました。その結果、下記のとおり義援金を寄付しましたことをご報告いたします。

■義援金総額	110,000円
■申込みいただいた株主様	22名
■寄付先	日本赤十字社

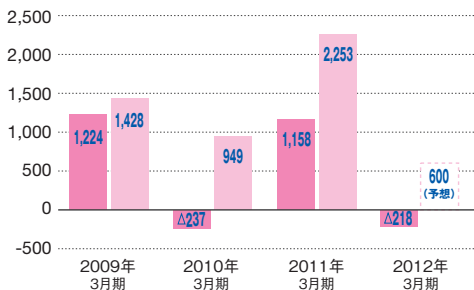
※この義援金は、日本赤十字社を通じて被災地復興のための義援金となります。

# 連結決算ハイライト

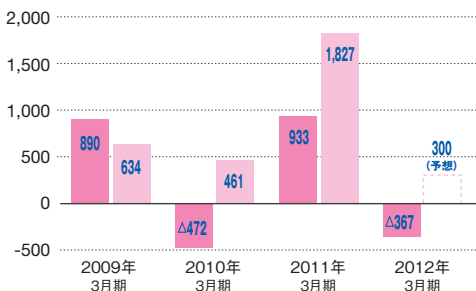
● 売上高 (単位: 百万円)      ■ 第2四半期      ■ 通期



● 営業利益 (単位: 百万円)      ■ 第2四半期      ■ 通期

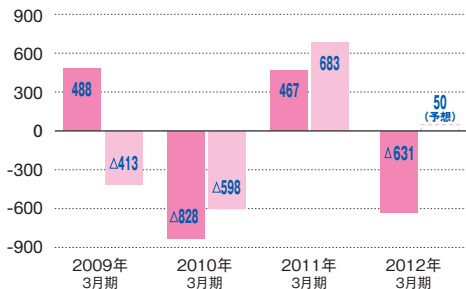


● 経常利益 (単位: 百万円)      ■ 第2四半期      ■ 通期

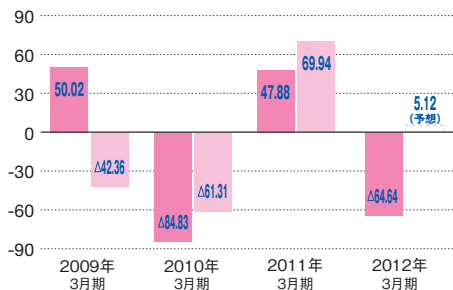


※当社連結子会社のタイ・マルジュン社が洪水被害を受け、操業停止をいたしました。この操業停止が当連結会計年度に与える影響は不明確となっており、合理的な算定が困難となっているため、2011年6月20日に公表いたしました通期連結業績予想を変更しておりません。

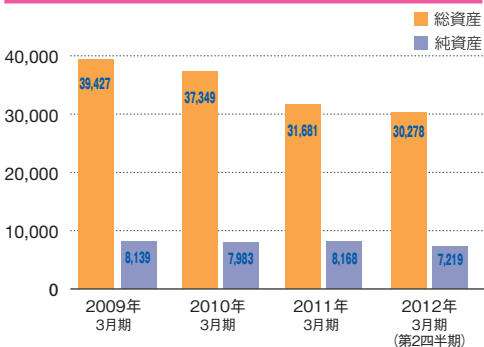
● 四半期純利益 (単位: 百万円) ● 第2四半期 ● 通期



● 1株当たり四半期純利益 (単位: 円) ● 第2四半期 ● 通期



● 総資産・純資産 (単位: 百万円)



# 四半期連結財務諸表

四半期連結貸借対照表（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期末 2011年9月30日現在	前期末 2011年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	9,272	9,590
固定資産	21,005	22,090
有形固定資産	19,175	19,655
無形固定資産	114	128
投資その他の資産	1,716	2,307
資産合計	30,278	31,681
<b>負債の部</b>		
流動負債	14,029	14,976
固定負債	9,029	8,535
負債合計	23,059	23,512
<b>純資産の部</b>		
株主資本	5,683	6,334
資本金	1,037	1,037
資本剰余金	935	935
利益剰余金	3,712	4,363
自己株式	△2	△2
その他の包括利益累計額	△942	△745
その他有価証券評価差額金	178	402
為替換算調整勘定	△1,121	△1,147
少数株主持分	2,478	2,579
純資産合計	7,219	8,168
負債純資産合計	30,278	31,681



四半期連結損益計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	2011年4月1日から 2011年9月30日まで	2010年4月1日から 2010年9月30日まで
売 上 高	16,633	21,900
売 上 原 価	15,193	18,953
販売費及び一般管理費	1,657	1,788
営業利益・損失（△）	△ 218	1,158
営業外収益	122	41
営業外費用	271	266
経常利益・損失（△）	△ 367	933
特別利益	1	11
特別損失	111	96
税金等調整前四半期純利益・損失（△）	△ 477	847
法人税等	178	191
少数株主損益調整前四半期純利益・損失（△）	△ 656	655
少数株主利益・損失（△）	△ 24	188
四半期純利益・損失（△）	△ 631	467

四半期連結キャッシュ・フロー計算書（要旨）

（単位：百万円）

科 目	当第2四半期	前第2四半期
	2011年4月1日から 2011年9月30日まで	2010年4月1日から 2010年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,186	3,482
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,450	△1,394
財務活動によるキャッシュ・フロー	687	△2,233
現金及び現金同等物に係る換算差額	△1	△16
現金及び現金同等物の増減額	421	△161
現金及び現金同等物の期首残高	595	1,654
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,017	1,493

## 会社概要 (2011年9月30日現在)

商号	株式会社 丸順 (英文社名：MARUJUN CO., LTD.)
本社所在地	〒503-8510 岐阜県大垣市新田町2丁目1234番地
創業	昭和27年7月 (創業者・現最高顧問 今川 順夫)
設立	昭和35年1月
資本金	10億3,755万円
事業内容 (連結)	自動車用車体プレス部品の製造 自動車用精密プレス部品の製造 大型金型等、各種金型の設計・製作 治具・検査具の設計・製作 自動車の販売・サービス
従業員数	566名 (連結3,170名)

## 役員 (2011年9月30日現在)

代表取締役社長	今川 喜章
取締役副社長	小高 光一
取締役	森 源夫
取締役	奥田 崇雄
取締役	磯久 毅
取締役	高塚 雅彦
取締役	猪熊 篤俊
取締役	齊藤 浩
常勤監査役	西部 隆雄
監査役	片岡 信恒
監査役	岡田 正市
執行役員	山中 昭夫
執行役員	棚瀬 尚
執行役員	渡辺 敦
執行役員	栗本 和宜

(注) 常勤監査役 西部隆雄氏、監査役 片岡信恒氏は、社外監査役であります。

# 株式の状況 (2011年9月30日現在)

## 株式数および株主数

発行可能株式総数	39,000,000株
発行済株式の総数	9,771,000株
株主数	704名

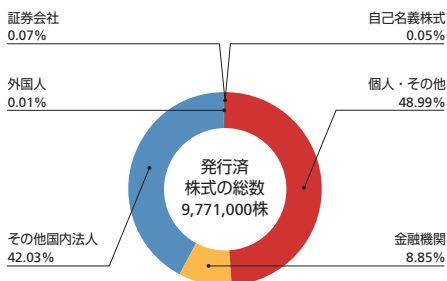
## 大株主の状況

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
本田技研工業株式会社	1,988,950	20.37
今川順夫	1,033,170	10.58
今川喜章	1,002,270	10.26
太平洋工業株式会社	463,950	4.75
名古屋中小企業投資育成株式会社	371,000	3.80
株式会社三菱東京UFJ銀行	325,000	3.33
今村金属株式会社	307,000	3.14
丸順従業員持株会	306,580	3.14
株式会社大垣共立銀行	300,000	3.07
有限会社イマガワ	300,000	3.07

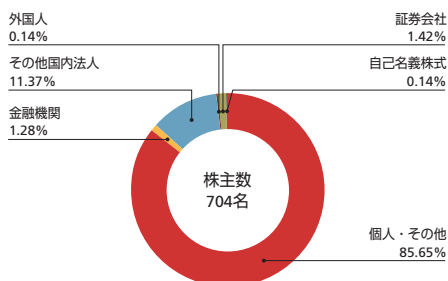
(注) 持株比率は、自己株式 (4,855株) を控除して計算しております。

## 株式分布状況

### ● 株式数構成比



### ● 株主数構成比



## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで	
定時株主総会	毎年6月	
基準日	定時株主総会・ 期末配当	毎年3月31日
	中間配当	毎年9月30日
株主名簿管理人	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社	
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-78-2031 (フリーダイヤル) 取次事務は中央三井信託銀行株式会社 の本店及び全国各支店ならびに日本証 券代行株式会社の本店及び全国各支店 で行っております。	

- ・住所変更、単元未満株式の買取等のお申出先について  
株主様の口座のある証券会社にお申出ください。なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。
- ・未払配当金の支払について  
株主名簿管理人である中央三井信託銀行株式会社にお申出ください。



本株主通信は、環境保全のため「植物油インキ」で印刷しています。